

## 第3回那珂川町学校規模適正化検討委員会議事録

令和8年1月16日（金）

14:00～15:30

那珂川町役場201・202会議室

### 1 開会

### 2 あいさつ

那珂川町学校規模適正化検討委員会委員長 池田 聖

### 3 会議録確認

- ・ 修正点がないか確認する。修正がある場合、事務局へ連絡をしてほしいと伝えられた。

### 4 説明

- (1) 各学校における施設設備等の状況及び児童生徒の通学状況等について
  - ・ 資料2に基づき、事務局より説明する。

### 5 協議

- (1) 教育環境に関する児童生徒・保護者アンケートについて
  - ・ 資料3に基づき、事務局より説明する。

#### 【委員からの意見・質問等】

- ・ 児童生徒へのアンケートの対象者を小学校4年生から中学校2年生で設定し、中学校3年生を対象から外した理由は何か。また、アンケートは、地域の集まりなどで意見をもらい、地域の声として反映できると思うが、どのように考えているか。

(事務局) 対象者を小学校4年生からにした理由は、小学校4年生以上であれば、先生の説明を受けながらタブレットを使い、回答ができると思った。中学校3年生を対象から外した理由は、受験があるため配慮した。しかし、学校の意見を聞き、対象者を調整することは可能である。

前回、町民に意見を聞いてみたらどうかという意見があったので、アンケートを実施することとなった。まず、児童生徒やこども園の保護者にアンケートを行い、その意見を踏まえた上で、要望があれば行政区の意見も聞くことができると思う。行政区長会議等でも相談することもできていると考えている。

(委員長) 対象者を小学校1年生から小学校3年生と中学校3年生も対象とすることは可能か。

(小学校長) 複数の教員で指導をすれば、小学校1年生や小学校2年生でもアンケートを行うことは可能だと思う。

(中学校長) 中学校3年生も実施することができる。

(事務局) アンケートの対象者を小学校1年生から中学校3年生の児童生徒と認定子ども園・小中学校の保護者を対象に進めたい。小学校低学年に対して、今回のアンケートで、理解できるかどうか、後日、助言してほしい。また、他

校の先生方とも相談していただき、慎重に進めたい。

- ・保護者アンケートで子どもが通っている子ども園や学校を選択する箇所があるが、“通っていない”を選択肢にいれると、不登校ととらえる方もいると思うので、違う表現の方がよいのではないかと思う。  
(事務局) “通っていない”の選択肢の意味は、対象の子どもがいないことを想定している。例えば、小学校に通っている子どもの保護者が回答した場合は、認定こども園や中学校には子どもが、“通っていない”に回答することを考えて作成した。誤解を招く表現なので、修正したい。
- ・特別支援学校に通っている保護者にもアンケートを行うのか。  
(委員長) 特別支援学校や私立の学校に通っている子どもの保護者は、どのようにするのか。
- ・その他で記入欄を追加したらどうか。  
(事務局) 今回のアンケートは、町内の小中学校の規模をどうするかを検討する内容なので、私立の学校に通っている保護者は、対象としていない。保護者が登録している町内のこども園や小中学校の一斉メールで行う予定でいる。特別支援学校に通っている保護者も把握しているので、アンケートを行うことは可能である。しかし、町内の小中学校を今後どうしていくかの検討委員会であるので、対象者は、町内在住で、町内のこども園と小中学校に通っている保護者を対象としたい。
- ・保護者に対してのアンケートで、「上記質問の回答理由を選んでください（複数回答可）」のその他の回答欄は、自由に意見を書くことは可能か。次の質問「今後、少子化の影響で児童生徒数が減少した場合、あなたの考えに最も近いものを選んでください」の回答欄にその他欄で自由に意見を書くことは可能か。保護者の中には、統廃合以外の考えを持っている保護者もいると思う。  
(事務局) その他欄に自由に意見を書くことができる。下段の質問については、“わからない”や“どちらともいえない”などの意見も考えられる。回答項目を増やすことは、検討したい。
- ・児童生徒のアンケートの中で、『学校生活を送る中で「いいな」と感じる点はどんなことですか。あてはまるものを全て選んでください』というポジティブな面を聞く質問があるが、問題点を聞く質問があってもいいと思う。  
(事務局) 先行してアンケートを実施している市町村によっては、ネガティブな質問もあった。事務局としては、これからの明るい子どもたちの教育を考えた上で、マイナスの部分は聞かず、設問の中からマイナス面を汲み取ることで、参考としたい。
- ・アンケートの設問の中に問題点を問う質問があった方が、課題を知ることができる。神経質になる必要がないと思う。
- ・保護者に対してのアンケートで、「これからの子どもたちに必要な教育環境と

して大切だと考えることを3つまで選んでください」の問いの中に多様なニーズに対応した教育の充実の観点から、インクルーシブ教育についても設問に加えたらどうか。

- ・保護者に対してのアンケートの冒頭でアンケートを行う趣旨が書いてあるが、“少子化が進む本町において～”と明示しているのも、最後の設問の統廃合についてを最初に聞いた方がいいと思う。最初に統廃合の是非を聞いた後、アンケートを進めれば、教育環境に対しての保護者の考えが、明確になると思う。
- ・保護者に対してのアンケートで、「望ましい1学年あたりのクラス数」を聞いているが、保護者の視点で重要なことは、クラス数よりも1クラス当たりの人数が重要だと感じる。クラス数だけを問われると保護者側と行政側で認識のずれが生じるのではないかと感じる。その他の項目で、人数について言及できればいいと思う。

- ・1クラス当たりの人数は、文部科学省で決められていると思う。

(事務局) 計画でインクルーシブ教育についても目標を設定しており、今後進めていくのであれば、インクルーシブ教育についての設問を設ける必要があると考える。ただ、他の設問において、多様性の理解などが示されているので、設問の項目については、事務局で検討する。本町では、少子化が進んでいるため検討委員会を立ち上げ、子どもたちの教育環境について考えている。学校の統廃合の是非を決定するのではなく、子どもたちの望ましい教育環境を整備することを目的にしているため、統廃合に関する設問は、最後にしたいと考えている。クラス数の質問については、注釈を加えて、クラス編成の説明をすることは可能である。

- ・保護者のアンケートの趣旨が最初に書いてあるが、2行だけでは、アンケートを行う意味が伝わらない。

(事務局) 一斉メールで送信するので、メールの文で丁寧に説明する。

- ・アンケート結果の公表方法と活用方法を明示した方がいい。

(事務局) 一斉メールを送る際に、メールの文章の中で、学校規模検討委員会が教育環境について協議していることやアンケートの趣旨や公表方法を伝える予定。併せて、アンケート結果は、今後の検討委員会の資料として活用することも明記する。検討委員会の資料や議事録は、町のホームページで公表しているので、住民の方も閲覧することが可能である。アンケートについて質問や意見がある場合は、学校教育課へ伝えてほしい。

## (2) 本町における学校教育のあり方について

- ・資料4に基づき、「ふるさと教育」と「地域交流」について事務局より説明する。

### 【委員からの意見・質問等】

- ・小さい時、子どもたちは、町にずっといたいと思う。しかし、中学生頃から都

会に憧れを抱く。幼少期の地域での体験は、非常に重要だと思う。現在、小学校では地域とかかわる様々な教育を行っている点が、素晴らしいと思う。蝉の声やカエルの鳴き声で夏を感じることもあるが、四季折々の田舎の暮らしの変化や普段感じる何気ない日常の経験が、学校外でも必要だと感じる。小さい時の記憶が大人になった時にも思い出として残り、重要だと思う。

- ・(小学校長) 小学校では、町内の事業所に地域コーディネーターや地域ボランティアの協力を得て、見学に行っている。中学校では、一度町を離れたがUターンして頑張っている方の話を中学校で話してもらっている。町を離れて分かった仲間の良さなどを話してもらった。

- ・中学校の廊下にふるさと教育について学んだことが掲示してあった。印象的なものがあったので、紹介したい。将来、那珂川町を出ていきたいと考えていたが、町の良さを知り、住み続けたいと思ったという内容であった。町を出ていきたいと考えている人がいる点と住み続けたいと思う点を発信したいと書かれているところがすごくよかった。

- ・小規模校では、昼休みに全員で鬼ごっこをしたりしているのを見ると小規模校の良さを感じる。地域交流も盛んで地域の方と昔ながらの遊びをしたり、田植えや稲刈りを行ったりしている。地域コーディネーターも協力的で、子どもたちとも親しい関係を築いている。しかし、以前、複式学級を解消するために学校の統廃合を進めてきたと聞いたことがある。そのような形で仕方ないのかなと感じる。

### (3) その他

- ・(事務局) 午前中に委員長を含め5名の委員さんに馬頭東小学校の見学をしてもらった。代表で、感想をいただきたい。

- ・先生方がきめ細やかで、個に応じた指導をしていると感じた。しっかり学力を定着させたいという思いが、校長先生や教頭先生が指導している姿からも伝わった。人数が少ない中、役割分担をしたり、複式で授業をすることで、考えを深めたりしていた。また、複式学級解消のため、教員を増員させるなど対応していて、ありがたいと感じた。また、不登校児童がいないという点から、様々なフォローをしていると感じた。ただ、地域の問題として、家庭学習の定着化が問題だと感じた。少人数のため、男女比のバランスが悪い学年があることも気になった。

- ・子どもの人数が少ないため、先生が目が届きやすいと感じた。普段と違う環境の中、落ち着いて授業をしていた。先生方の話の中で、先生が目が届くが故に先回り指導をしてしまうことがあると聞いた。那珂川町の学びのスタイルは「インプットとアウトプットを意識する」ことだと思う。子どもたちを見ていると先生からのインプットは多いが、アウトプットが少ないと思う。個別最適な学びはうまくいくが協働的な学びは、難しいと感じた。インプットは、先生

だけからではなく、他の友達からのインプットもある。また、アウトプットするには、時間がかかるので、考える時間も必要。少人数だとすぐに順番がまわってきて答えを求められてしまうため、答えられない場合、先生が指導してしまうと感じた。掲示物も人数が多い学年は、複数で係配置されているが、少ない学年は、1人で担当している。1人で活動することが多いと、協働的な学びはしにくいと思う。

・(事務局) 会議終了後、委員の任期について説明したいと伝えた。

## 6 事務連絡

- ・事務局より次回の連絡を行う。
- ・教育長からあいさつ

## 7 閉会